

周波数変動の需要家への影響の実例（東京電力・岡本浩氏）

【GEN 事務局の注記】

研究会当日は東京電力・岡本浩氏より下記の出版物のコピー（A4・1枚）が資料として配布されました。しかし、少人数の勉強会などで使用する分には著作権上問題はないが、ウェブにそのまま張り出すことは著作権上問題が生じる恐れがある、とのことです。そこで、岡本浩氏より頂いた配布資料の内容がわかる以下の情報を、当日資料に代えて掲載しております。どうぞご理解下さい。

【東京電力・岡本浩氏より頂いた、資料に代える情報】

・我が国における周波数変動に対する問い合わせ状況については、以下の文献に記載（いずれも同じ内容）。

電気協同研究第 55 巻第 3 号、「電力品質に関する動向と将来展望」

電気学会技術報告第 869 号、「電力系統における常時および緊急時の負荷周波数制御」, p.66

- ・これによると平成 4 年 4 月～5 年 5 月の間で、周波数偏差が 0.2Hz 程度を越えると主に繊維関係の需要家から問い合わせがある状況。
- ・平成 5 年 4 月 4 日のケースでは、周波数変動(0.25Hz)により、繊維の紡糸延伸行程に用いる電動機の回転変動が生じたため、製品にムラが発生したとのこと。
- ・当社のケースでも、この資料のように、繊維、圧延、製紙など、電動機を使って何かを延ばすというタイプのお客さまから問い合わせを頂くことが多い。当社ケースでは 0.2Hz を超えると必ずと言っていいほどお問い合わせを頂く状況。